

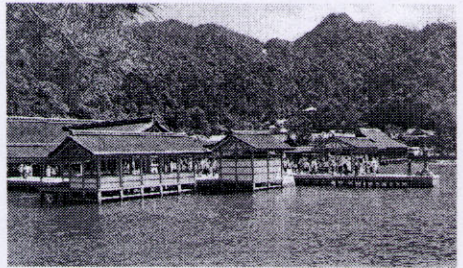
厳島神社にエコアコルウッド

設置試験で高い評価

九州木材工業

世界文化遺産の厳島神社（広島県廿日市市）に、九州木材工業（福岡県筑後市、角博社長）が生産・販売する保存処理木材エコアコルウッドが採用された。今後10年にわたって進められる修復作業で、本殿の土台、側面板などをエコアコルウッド保存処理し納材していく。同神社に使用される木材は海に接していることから厳しい使用環境にあるが、従来の薬剤性能による木材保存メカニズムとは異なり、木材内で樹脂を高分子化させ腐朽菌や虫による木材の分解を困難にするエコアコルウッドの技術が高い保存効果を発揮している。

厳島神社は、平安時代末期に平家一族の崇敬を受け、1168年頃に平清盛が現在の社殿を造営したことなどが広く知られている歴史996年12月、ユネスコの世界遺産委員会で正式に世界文化遺産として登録された。また、本社本殿・幣殿・拝殿等17棟、大鳥居、五重塔、多宝塔3基が



今後10年にわたる修復作業で、本殿の土台、側面板等がエコアコルウッド保存処理される

らなる建造物群のうち、6棟が国宝、11棟・3基が重要文化財に指定されている。

厳島神社ではこれまで、本殿などに使用される木材に松、クス、松の高齢級大径目細良材を採用してきたが、

も海に接するような設置条件、船食い虫による被害などから、3〜4年の耐久性が限界となっていた。そこで良い保存処理技術がないか検討され、半年ほど前から行われてい

たエコアコルウッド（保存処理）の設置試験結果が良好となったことから、まずは本殿の土台、側面板等で採用されたもの。同保存処理により木材の寿命は2倍以上に延びることが見込まれている。

6月頃に初回、このほ

ど2回目の納材が行われたが寸法安定性を含めて高い評価を得て、今後は能舞台などほかの部材での採用も検討されている。

現場納材にも立ち会った高口靖彦営業グループ営業チームリーダーは、「できるだけ従来の資材を使って修復

を行い、木材の寿命を延ばしたいという希望があったが、木口処理を含めエコアコルウッドに良い評価をいただくことができた。歴史的な建造物であり、今後もしっかり進めていきたい」と話している。